

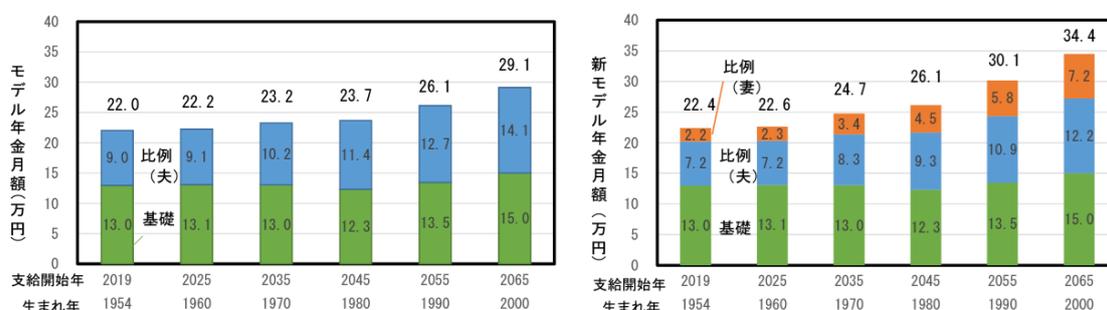
多様なライフコースに応じた年金の給付水準の示し方についての意見

2024年5月13日

是枝 俊悟（大和総研）

- ・多様なライフコースに応じた年金の給付水準を示すとともに、社会全体のライフコースの変化を踏まえた「世代ごとの標準的な年金額」の見通しを示す、新たな指標が必要である。
- ・特に、夫婦の世帯においては、現在の「モデル年金」は男性1人分の平均賃金しかない世帯を想定している。このため、今後、夫婦ともに正規雇用で働く世帯が多数派になる中で、若い世代ほど、同世代の平均像からの乖離が大きくなっていく。
- ・大和総研では、就業の有無や形態を特に設定しない、より汎用的な「その世代における夫婦世帯の平均像」を想定し、各世代の男女それぞれの平均的な厚生年金加入実績を持つ夫婦世帯における年金額を「新モデル年金」として試算している。
- ・「新モデル年金」を用いると、これまでの「モデル年金」と比べて、女性や高齢者の就労実績が反映されることで、後に生まれた世代ほど（現在の物価に直した）実質年金額が増加していく見通しが持ちやすくなる。また、厚生年金の適用拡大によって、社会全体として年金額が増加していく見通しを、国民にわかりやすく伝えることができる。

「モデル年金」（左：政府試算）と「新モデル年金」（右：大和総研試算）の違い



(注) 2019年財政検証におけるケースⅢ・死亡中位・出生中位のケースを用いた。年金額は2019年の物価に換算した実質値。詳細は下記レポートを参照。

(出所) 厚生労働省「2019年財政検証」をもとに大和総研作成

【参考文献】

是枝俊悟「女性の就労実績を加味した『新モデル年金』の提唱と試算」(2021年7月8日、大和総研レポート)

是枝俊悟「女性の就労実績を加味した『新モデル年金』の所得代替率の試算」(2021年9月22日、大和総研レポート)